



謹賀新年

今年もよろしくお願いします

理事長 西田 良枝

あけましておめでとうございます。

“誰もが安心して自分らしく地域の中で暮らし続ける…”の理念を掲げ大変だけれど希望を持って「とも」を立ち上げてから早いもので8年目を迎えます。

この間、障害福祉では支援費制度から自立支援法に変わり、介護保険も見直しがありました。そのように制度の変更があるたびに、利用者も事業所もそれに対応するために労力が必要ですし、その事務手続きやりに追われてしまい、次々と変わっていく制度がいったい自分たちにとってほんとうに良い結果をもたらすのか？といったことをちゃんと考え検証してみる視点を見失いがちになります。

ほんとうは見失うも何もともと安心できる社会保障の仕組みがあれば、そんなにコロコロと変わる制度に目を凝らし気持ちを傾け、一喜一憂しなくてもよいのでしょうが…。

昨年の10月、「とも」に夜間対応のヘルパー派遣を行っている事業所の方から相談がありました。夜間の定期巡回ヘルパー派遣専門の事業所を2月に立ち上げたが当初たくさんいた職員は一人また一人と退職し、最後はたった一人になってしまった。けれども、受け持っている利用者さんは夜間のヘルパーがあるから住み慣れた自宅での生活が続けられており、それは一晩もなくすることはできない状況にあることをよくよくわかっているから、行かないわけにはいかない。でも、もう自分の心身の状態が極限まで来ていてこれ以上続けることができない…助けてほしいと。

その方はたった一人で一晩中、30分単位で利用者の家を回り排泄介助や着替えや体位交換などを行っては、戻る事務所もないのでコンビニの駐車場に車を止めて車で休息を取り、また次の利用者のところに向かう、という生活を職員が全員辞め、一人きりになってからは、一日も休むことなく続けていたそうです。

自分の心身を消耗させながら支援をし続けて来た支援者にとっても悲惨な状況でしたが、その方の支援を受けてきた利用者さんたちの不安感はどうなだったかと思うと、“誰もが安心して自分らしく地域の中で暮らし続ける…”

ことは今の市場原理に任されたことだけでは難しく、最後のセーフティネットはどこが張るのか？を明確に仕組みの中に取り入れておいてほしいと切実に思いました。

体調も悪く数ヶ月間一日も休みなく自分の支援に来てくれるヘルパーさんに支援をされているときの利用者さんの気持ちは、ほんとうは休んでほしいと思っても、自分の命もかかっているからそれとも言えず、今夜はもう倒れてきてくれないのかもしれない、あの人がだめになったらどうするんだろう？と毎日毎日不安だったと思います。このような不安定な支援の中で、自分らしい地域生活を望むことなどできるのか…。

このようなことが予想されるから、いつも不安な生活が続けるのはしんどいから、ほんとうは自宅で暮らし続けたくても、施設入所を望む声はなくなり、地域での支援の充実にしっかりと方向性が見出せない今のままでは、「とも」の理念も自立支援法の理念である「自立と共生」も虚しい文字でしかない、と感じます。

夜間のヘルプや一人暮らしの人のところにヘルパーが抜けたら…ということはわかりやすいですが、子どもの支援でも、高齢者の家族がいる支援でも理屈は同じです。

サービスが必要と認められたからそのサービスは行政が支給決定してくれたわけですから、それが提供することができないことは、支給決定そのものが絵に描いた餅で使えないサービスになってしまうことをしっかりと考えていかなくてはならないと思います。

現在の福祉制度の仕組みの中で、「とも」が掲げる理念を現実のものとするには、「権利としての支援」の必要性をみんなで伝えたりつくったりしていくことが必要だと思っています。そのために、2008年度は、みんなが元気を取り戻せたり、自分の権利を知ることができたり、地域の中での活動ができたり…などなどの新しい事業の取り組みや、現在の事業の根本的な運営の見直しをしなくてはならないと考えています。(利用者の方々に別途お知らせをいたします)

みなさんのご理解とご協力を今年もよろしくお願い申し上げます。

地域活動支援センターの可能性

「地域活動支援センター」は日中活動の場です。日中活動の場という、障害者の通所施設に毎日決まったメンバーが通って、職員の支援を受けながらクッキーやパンを焼いて販売したり、牛乳パックの手漉き葉書をつくったりするという形態が一般的だと思います。わたしたちは、「地域活動支援センター」は、障害のある人が「自分らしく生きることができるときの拠点」とすることができないのだろうかと考えています。

浦安市の委託相談支援事業所である「サポートセンターとも」では、「ともサークル」という活動を行っています。障害のある当事者の人たちが集まって話し合い、どのような活動をするか、そのための準備の役割を誰が何を担うのかを自分たちで決めながら、役割をもって進めていきます。例えば活動の内容は「カラオケで楽しむ」だったり「ボーリングに行く」だったりしますが、「何をするか」から自分たちで話し合っただけで決めます。その過程を相談員が側面的にサポートしています。

障害のある人が、レクリエーションとしてカラオケに行ったり、ボーリングに行ったりする場合、多くは、「カラオケをする」とことや「ボーリングに行く」ことは、支援者によって先に決められており、当事者はそれに参加して楽しむだけということになりがちです。いつも活動内容が先に決まっていた、それに参加して楽しむだけ。自分で考え主張することも役割もない状態を続けながら、人は自分で主張する機会を失い、依存的になって、

自分らしく生きることをあきらめてしまうかもしれません。カラオケをしたり、ボーリングしている姿は同じでも、その活動が行われるプロセスに参加できているかどうかによって、自分らしさの源にある「自分を主張するパワー」を育てる活動にもなれば、それを弱くして依存的にさせてしまう活動にもなるでしょう。障害のある人の体験の多くは、本人が何をしたいか聞かれたり、主張が尊重されたり、活動のための役割をもったりする機会がとて少ない状況にあります。

地域活動支援センターは、このような当事者の主体性を育てることを中心とした活動を行うことに、新しい役割があるのではないかと考えています。小さな希望でも、それが実現することによって、「次はこれがしたい」という想いはふくらみます。その「想い」がふくらみ強くなっていくことが、自分らしく生きたいという気持ちの強さにつながっていきます。「自分らしく生きたい」は、それを主張していいのだという安心感があって、はじめて自分の外に向かって発信されます。

「とも」でも地域活動支援センターに取り組みたいと考えています。自分らしく生きることは、自分らしく働くことにもつながります。

喫茶店や花屋のようなお店が併設されていて、地域のお客さんたちと関わりながら自分の役割をもって働くことまで支援できる場にできれば素敵だなと、「想い」をふくらませています。



浦安市地域自立支援協議会 進捗状況！

浦安市地域自立支援協議会は、2007年4月に、浦安市が設置主体となり、様々な関係機関が集って、だれにとっても住みやすい街づくりの拠点として発足しました。

発足以来、計9回の会議が開催されました。それでは、3つのプロジェクト会議の進捗状況をお知らせします。

啓発・広報プロジェクト

より多くの人に自立支援協議会設立を知ってもらうため、障がい者週間記念イベント実行委員会とともに、フォーラムを開催することになりました。皆さんのご参加を心よりお待ちしております！

就労プロジェクト

計2回の会議では、障がい者を雇用している立場、作業所を運営している立場、障がい者の就労相談を受けている立場から様々な意見交換が行われました。

障がいがある人の「働きたい」という声に応えるため、今までの議論をもとに、浦安版「就労支援」を具体的に提言していく予定です。

事業所・制度プロジェクト

このプロジェクトで大きく取り上げられていることが、担い手の不足です。事業所の報告から、人材不足によってサービスの支給決定を受けても利用できない「絵に描いた餅」状況が起きていることが、明らかになりました。

いかに人材を呼び込むか、どうすれば、ヘルパーの離職率を下げる事ができるのか。安定的な人材確保の方策を具体的に考えることが、次のステップとなっています。

【矢 富】

浦安市地域自立支援協議会設立・障がい者週間記念フォーラム
「この街で、生き生きと輝きながら暮らしていくために」

～ 障害者自立支援法施行1年を振り返る ～

開催日：2008年2月10日（日） 9：00開場 9：30開演

場 所：浦安市文化会館 大ホール他

内 容：午前 基調講演（2部制）

午後 当事者シンポジウム・支援者シンポジウム

登壇者：厚生労働省障害福祉課長 蒲原基道氏

社会福祉法人むそう理事長 戸枝陽基氏 他

追悼 山本和儀先生（パーソナルアシスタンスとも理事）

はじめて山本先生とお目にかかったのは、大阪・大東市を視察しに行った11年前のことでした。山本先生の実践がすばらしく、うらやましく「どうしたら、このようなことができるのでしょうか？」と聞いた私たちに「お前らがやればいいんや」「共に学ぶ環境がほしいんですけど…」「そうしたらええやんか！」何を聞いても怒っているのかと思うような態度と短い言葉が返ってくるだけでした。

学校や自分たちの生活で起こっていることを聞きながら「それは『差別』やな」と言い切る山本先生の存在すべてから伝わる言葉の深さに、こころを揺さぶられる思いを何度も経験し、勇気付けられて来ました。

山本先生との出会いは「とも」の原点です。その日以来、ずーっと山本先生は私たちのこころの支えであり実践の師であり、理念の存在でした。ご逝去の一報を受け、息が止まりました。大きな大きな喪失感に襲われて、どれだけ偉大な存在であったのかを思い知りました。

悲しくて、残念で仕方ありませんが、山本先生に教えていただいたたくさんしたこと、「支えきること」を信条にしてきた山本先生の魂を、私たち「とも」はしっかりと引き継いで行きたいと思っています。

NPO法人を立ち上げてから現在まで、「とも」の理事として力を貸していただけたことに感謝を申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

【理事長 西田 良枝】